

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告

1 組織

- (1) 都立工芸高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務部主任兼務)＝事務局長、総務部1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、進路指導主任、専科主任、総務部主任 計7名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者(大学教授)、PTA会長、近隣中学校長 文京区立本郷台中学校長、同窓会会長、地域企業代表者5名 計9名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）（会場：本校1階第3，4会議室）
 - 第1回 令和7年6月25日（水）16:00～17:00 内部委員8名（欠席1名）、協議委員7名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、教育活動に関する報告
 - 第2回 令和7年11月12日（水）16:00～17:00 内部委員8名（欠席1名）、協議委員7名
これまでの教育活動に関する報告
学校評価アンケートの内容検討、協議
 - 第3回 令和8年3月18日（水）16:00～17:00 内部委員8名（欠席1名）、協議委員7名
これまでの教育活動に関する報告
学校評価アンケートの報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認
- (2) 評価委員会（第1～3回）（会場：本校1階小会議室）
 - 第1回 令和7年6月25日（水）15:30～16:00 内部委員3名、協議委員2名（欠席1名）
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
 - 第2回 令和7年11月12日（水）15:30～16:00 内部委員3名、協議委員2名（欠席1名）
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 令和8年3月18日（水曜）15:30～16:00 内部委員3名、協議委員3名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・12月 保護者全員 対象：525人 回収：221人 回収率：42.1%
 - ・12月 生徒 対象：525人 回収：284人 回収率：54.1%
 - ・12月 教職員 対象：59人 回収：33人 回収率：55.9%
- (3) 主な評価項目
 - ・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備など
その他「ライフ・ワーク・バランスの推進」および「クラッシー」の活用状況について
- (4) 評価結果の概要
 - ・生徒は、各質問項目において昨年度とあまり変化は見られない。進路関係においては、情報提供や進路相談などについて概ね満足している。
 - ・施設設備においては、トイレ等の施設改善を希望する声が多かった。
 - ・専科の実習や進路指導などにおいて保護者は、生徒たちが十分指導を受けており学校生活は充実していると思われる。進路については「美大以外の進学情報が欲しい」という要望があった。
 - ・職員において生活指導規則が各科の特性上異なるので、一貫した指導が難しいという意見があった。
- (5) 評価結果の分析・考察
 - ・トイレ施設改善の要望については、本校は女子生徒の割合が高く利用頻度や衛生面へのニーズが高いことが要因のひとつと考えられる。
 - ・生活指導は、専科と連携しながらあらゆる機会にマナー意識を持たせる指導が必要である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・生徒の授業についてのアンケート結果から、普通科目の充実、美大以外の進路指導などが必要であると認識できた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・より適正な評価を行うためには、生徒・職員・保護者に対して、課題の成果等について情報発信することが必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・生徒・保護者に対して、細やかなでスピーディな情報発信。
- ・校内研修の充実。・教員間の確実な情報共有体制づくり。

(2) 学習指導

- ・ICTを活用した個別最適な学習支援の強化
- ・専門的な実技実習を通した主体的な学びの促進

(3) 特別活動

- ・学校行事における生徒主体による企画、運営の充実。保護者、職員と連携した支援体制の充実。

(4) 生活指導

- ・生活指導については、専科と生活指導部との連携を強化する。

(5) 進路指導

- ・3年間を見通した進路指導計画。・生徒による自己理解の深化 ・キャリア教育の充実

(6) 健康・安全

- ・課題制作のスケジュールリングをして規則正しい生活習慣の定着
- ・心身の健康に関する理解の深化

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
5	3	1	0	0	0	0

7 協議委員の本校への行事等参加実績及び成果

- ・工芸祭、卒業制作展において職員との交流することにより、様々なご意見を聞くことができた。

8 その他

- ・アンケート回収率を更に高めるため、実施時期、実施方法、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・回収率の向上とともに回答の精度を高めることで、評価の信頼性向上につながる。
- ・評価精度の更なる向上のため、地域にひらかれた学校公開の機会を増やしていく。